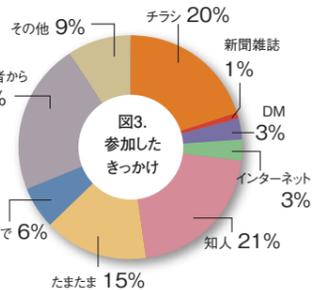
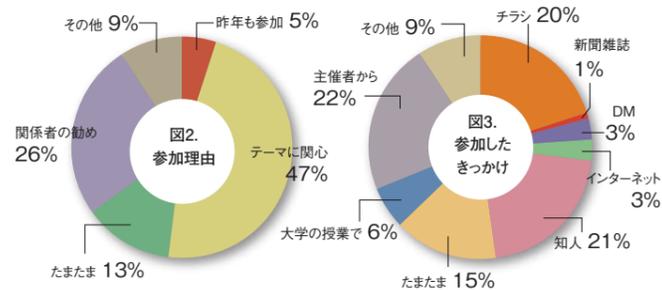
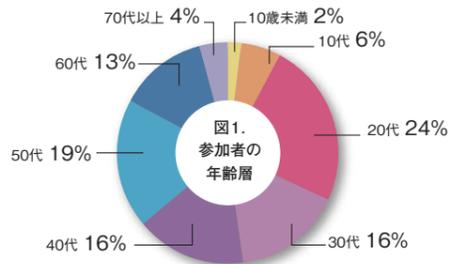


1. アンケート調査の意義

アンケート調査の目的は、参加した企画が参加者にとって「どのような体験だったのか」、そして「どのように感じたのか」を主催者が知るということです。記入されたさまざまな感想や意見は、その企画が達成した目標や改善すべき点を明らかにしてくれるとともに、今後の企画の案出や実践に向けた貴重な資料となります。また、アンケートの設問の文言は「その企画で何を達成したいのか」「参加することによって何を得てみたいのか」ということをもとにして考えますが、そのプロセスは企画のコンセプトをいっそう明確にしていくという効果もあります。その意味で、アンケート制作時に主催者自身が大きく変化し得る可能性を持っているといえるでしょう。今回のアンケートの制作に際しては、情報処理の専門家で社会調査師の資格も持つ東京電機大学理工学部准教授の矢口博之さんと同大学院博士課程で心理学を専攻する星野翔一さんからアドバイスを受けながら充実を図りました。

2. 今年度の取り組みについて

今年度は全体で20を超える事業を実施しましたが、それぞれの企画に参加した満足度を5段階評価で尋ねたところ、66%が「おおいに満足(評価5)」、20%が「満足(評価4)」と回答し、合計86%の方が参加に満足されたようです。また、個々の企画が掲げた目標についても達成されていたといえる結果がでています。参加者の年齢層はグラフからも分かるとおり、幅広い世代の交流の場となっていることがうかがえます(図1)。参加理由には47%が「テーマに関心を持った」をあげ(図2)、参加者は75%が埼玉県内の方でした。各事業を知ったきっかけは、「主催者・知人から」が計43%、ついで「チラシ」が20%、「たまたま」が15%で上位を占めています(図3)。チラシによる広報が効果を発揮している一方で、インターネットや新聞雑誌、DMによる動員についてはいっそう取り組む必要があるようです。また、今後は年度をまたいだアンケート調査から、より詳細な統計データを取るなどの中長期的な取り組みも期待されるでしょう。



3. 事前・事後アンケート

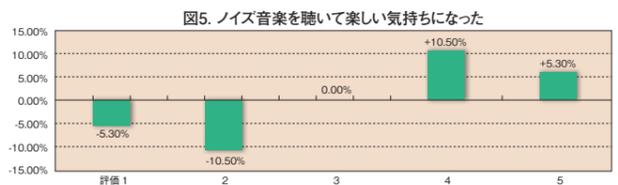
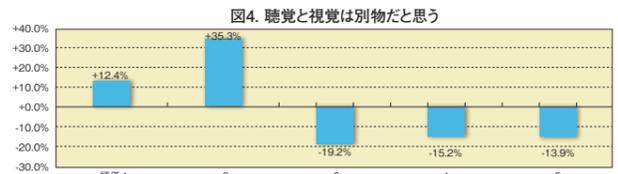
(サウンドスケープワークショップ)と(音モニターワークショップ)では、ワークショップ開始直後と終了直前の2度にわたって同じ質問項目に回答してもらう手法でアンケートを実施しました。受講者は「事前アンケート」からワークショップに関する予備知識を、「事後アンケート」からは自身の理解度を把握することができます。また講師はうまく伝わった項目とそうではない項目を理解し、次回以降の実施に役立てることができます。また、そのもうひとつの目的は芸術表現に直に触れることで参加者の感性がどのよ

うに変化するのかについての定量化にあります。普段なら不快に感じるような前衛的な音楽を、耳を啓いて意識を拡げ、さらに制作体験を通じて「おもしろい!」と思えるようになったとすれば、参加者の感性が何らかのカタチで拡張したと考えられます。実際のデータをみても、聴こえた音を思い出して記述する(サウンドスケープワークショップ)では、「聴覚と視覚とは別物だと思ふ」の問いに「思う(評価4・5)」は29.1%減少したのに対し、「思わない(評価1・2)」は47.7%増加しました(図4)。これは、参加者が五感を働かせて音のイメージを捉えようとしていることに気づいたことを表しているといえます。

(音モニターワークショップ)では、ルイジ・ルッソが作曲した世界初のノイズ音楽「都市の目覚め(1913年)」を聴いて楽しいと思っただうかを質問しました。ワークショップ後には、「楽しいと思う(評価4・5)」が15.8%増加したのに対して、「楽しいと思わない(評価1・2)」は15.8%減少しました(図5)。この結果は、それまで不快に感じられた前衛的な音楽を受容できるようになったことを示しており、感性の拡がりを明確に示しているといえます。

ワークショップに参加した人々が芸術表現に直に触れることで得るものの数値化・定量化が可能であれば、芸術の果たす社会的役割を踏まえた新たな企画の創出につなげることができるでしょう。今後は芸術的表現の企画とともに、科学的知見から芸術が個人や社会に果たす役割とその利点を明示する研究実践が重要になってきます。また表現ジャンルの融合を超えた、より学際的な地平へと企画を進展させていくことも視野に入れる必要があるのではないかと考えられます。より精度の高いデータを得るためには、回答率の充実や質問項目のさらなる向上が求められるといえるでしょう。

アンケートデータの集計や分析には多くの労力を必要とします。今年度は専門家のアドバイスに加え、事務局の小田さん・島村さん・近田さん・小野さんや「ヒアシンスハウスの会」の方々のご助力でアンケートを実施することができました。



4. 参加者の声

そのほか回答された方々に自由に書き込んでいただいたご意見・感想等を、各事業ごとに下記に抜粋します。(各事業のアンケート詳細については事務局にお問合せください。)

風の記念日(2010年7月18日)

- ◎小さい子どもが楽しそうに参加している点(が良かった)。
- ◎風鈴の音なども加わったら、涼しそうでよいのでは。
- ◎こういうイベントはもっと行って欲しい。おもしろかった。

アートピクニック:越谷再発見!(2010年7月24日)

- ◎ちゃんと地に足がついた自然体の取組を間近に見て感動しました。差し入れ色々たびつくりです。
- ◎街がアートでつながり、明るくなった。

アートピクニック:北本再発見!(2010年10月10日)

- ◎アーティストの方々が地域の方々と自然に交流されている様子が印象的でした。
- ◎常に意味あいを考えて行動するのでなく、行動した後に関心を感じていく事を知った。

美術教育5750分展II(2010年8月7日~10日)

美術教育5750分展IIシンポジウム(2010年8月29日)

- ◎これは何も美術教育だけの問題ではない!他教科ではどのような取り組みが成されているのか知りたい。
- ◎こんな授業だったら、もっと楽しめたいし、記憶にも強く残ったかも。
- ◎教育者だけではなく、生徒や保護者が参加できればもっとちがう立場の意見が出てきたと思う。

方丈庵・(き)がわりの假具で自在の間を楽しむ@IRUMA

「東野高等学校建築ツアー」(2010年9月25日)

- ◎全く知らず、この学園というか、村・町づくりにビックリ。設計をOKした施主に乾杯!未来永ぞう残してほしい。
- ◎学校らしさを感じさせない設計、建設当時、設計者と学校経営者の意図を感じさせる建築である。

「困いで踊る」(2010年9月25日)

- ◎よく創作されていました。舞台とよくマッチしています。
- ◎空間の利用の仕方が見事です。初めての体験でしたが、生へのパワーを感じます。
- ◎和とモダンの調和が面白い。踊り手の表現力はなかなかのものでした。

「困いを語る」(2010年9月25日)

- ◎知らないことがいろいろ出てきて面白かったです。上下足のこと、保存のこと、技術・科学のこと。

「煎茶Hako手前」(2010年9月25日)

- ◎私もあそこでお茶を飲みたくなりました。
- ◎新たに日本茶の文化を発見(見直した)。

「抹茶Air点前」(2010年9月26日)

- ◎楽しくゆったりと拝見する事ができ嬉しかったです。ホールのようにしめきった場でないのが良いと思いました。
- ◎Air点前を初めて拝見しました。所作が美しくイメージが大きくふくらみました。

夜会―「場」から創る―(2010年10月9日)

- ◎独創的な企画と思いました。雨でしたが、スタッフのご苦労に感謝します。
- ◎(ダンスとパフォーマンスのコラボレーションの)意外性が面白い
- ◎いつもは、舞台上で踊る作品をよく観ますが、今回このような芝生の上やオブジェ?をつかいながら踊ったり、不思議な建物などで踊るのを見て、とてもおもしろかったです。
- ◎とにかく、工場は味があって良かった。またここでやりたいです。交通の便は悪いけど、それを気にさせないほどの雰囲気の良いでした。
- ◎今まであまり見たことがない創作ダンスとパフォーマンスで、とてもおもしろかったです。おどりのふりも音楽もとても新鮮でした。想像もつかないような場所で踊ったり、音も大学生の人達が作ったときいて、本当にすごいと思いました。

体感する美術―サウンドアートから―

① 藤本由紀夫「HERE & THERE~見ることと聞くこと~」(2010年10月23日・24日)

- ◎HERE→耳が直接的、THERE→目が間接的なんて考えたことなかったのも、おもしろかったです。作品はもっと楽しめました。説明をうければうける程、もっと楽しめました。
- ◎楽しい音の認識ができました。とても面白かったです。県美で企画をして欲しいです。
- ◎身近な音に関心をもつようになりました。音が重なることノイズになる。本当にそうでした。これも新たな発見でした。

体感する美術―サウンドアートから―

② 松本秋則「音のある風景」(2010年11月6日・7日)

- ◎音とゆったりとした動きに見とれる子供心にかえった様です。
- ◎作品の中を自由に歩きまわって良かったです。
- ◎不思議な空間にいる感じがした。別の世界。落ちつく。かなり好きな雰囲気だ。

体感する美術―サウンドアートから―

③ 三友周太・河村陽一「音の部屋」(2010年11月20日・21日)

- ◎インスタレーションと色々見て来たが、やはり芸術とは感覚で知る物だと改めて実

- 感じた。
- ◎目を引く光の線に不思議な音、身近なもので出来てるとは思えない展示でした。ワークショップも新しい発見があっておもしろかったです。

交差するまなざし@KAWAGOE 展示+ワークショップ(2010年11月20日~23日)

- ◎若い人達の自由な発想でいろんなものを作りあげる事に感心、もっとアピールしたら?とても楽しかったです。6年生の子もたちにまじって自分もやらせていただきました。親切に教えていただきありがとうございました。
- ◎独自の雰囲気と時代性を帯び大空間がアートでいきいき息づいてみえました。楽しいプログラムの継続を願います。

音楽という表現の拡がりとともに ① サウンドスケープワークショップ(2010年11月28日)

- ◎全員が同じ音を聞いているにもかかわらず、自分が聞こえなかった音の意見が出てくることがおもしろいと思った。

- ◎主要な音を取捨選択している脳内構造に興味がありました。

音楽という表現の拡がりとともに ② 音モニターワークショップ(2010年12月19日)

- ◎あの音があんな曲になるなんて…!!と驚きました。楽しかったです。
- ◎何かを見た(聴きたい)と思いつくときに意識に入っていないものをどのようにして獲得していくかというお話が興味深かった。

音楽という表現の拡がりとともに ③ シンポジウム(2011年1月16日)

- ◎考えもなかった考えに触れた。
- ◎芸術の拡張が逆にその根源を見つめるきっかけとなり、より一層興味が出てきた(様々なジャンル)。
- ◎余計に音楽の定義がわからなくなりました。でも、それはそれで良いのでは、とも思えました。

第1回 SMFアートボランティア講座(2010年9月19日)

- ◎普通の人である自分としては、「(アートの事業を実行・継続していくためには)アートを支援する普通の人にどれだけ集まってもらえるかが重要」という言葉が、心に残りました。
- ◎「ボランティア」という言葉は偽善的な感じがして個人的にはあまり好きではないので、何かいい呼び方があればと思うのですが…。

第2回 SMFアートボランティア講座(2010年11月13日)

- ◎今までボランティア活動をした事がなく、今回の講座で活動に興味をもちました。何かのボランティアに参加したいと思います。
- ◎ボランティア同士の横の交流がなかなかなかったので、大変有意義な時間をもつことができました。ヒアシンスハウスもファームも本当にすてきな方々に支えられてたりしているんですね。これからも、アートボランティアを通じて自分も成長しつつ続けていきたいと思います。

第3回 SMFアートボランティア講座(2011年1月15日)

- ◎人にアートを伝える前に、まず楽しんじゃうという事が大事なことであり、それがコツかと思いました。
- ◎(参加者)それぞれが考えた内容がみんな異なり、おもしろく、考えることを楽しむとはこういうことか、と肌で感じる事ができました。

ラウンドテーブル(2010年12月18日)

- ◎コタツ談話となり、前回に比べて実りのある内容だったと思います。他講師のディスカッションもできれば参加したかったです。
- ◎気軽な雰囲気の中で、熱い話がありました。次回も楽しみにしています。
- ◎3人とも存在の仕方がおもしろく勉強になりました。
- ◎本気で一緒に力を合わせれば結果がでる。結果は達成感となり、街のレジェンドが生まれる。→いい言葉でした。